

東久留米一地名の由来（その2）

明治22年に前沢村外九ヶ村（連合戸長制）が合併して「久留米村」が誕生しましたが、合併した村々の中に久留米村という村はありません。それでは「久留米」という村名はどうしてつけられたのでしょうか。その点に関しては、「くるめの文化財・第15号」（平成11年刊）に詳しく触れましたが、現在15号の在庫が無いことや、最近新しい資料が確認されたことから、今回再度取り上げてみました。

結論からいうと、久留米村という村名は、市内を東西に流れる現在の「黒目川」からついたというのが一般的な説です。江戸時代の『新編武蔵風土記稿』には黒目川が「久留目川」「来目川」と記述されており、「クルメ」川と呼ばれていたことが推測されます。

江戸時代の黒目川の名称

『新編武蔵風土記稿』（文化・文政期）より抜粋

柳窪村

「山川 久留目川 小名色英久保より湧出し、村の北の方を流れ下里村に至る、村内をふること六町許、川幅六町（六町は原文のまま、誤記と思われる）」

門前村

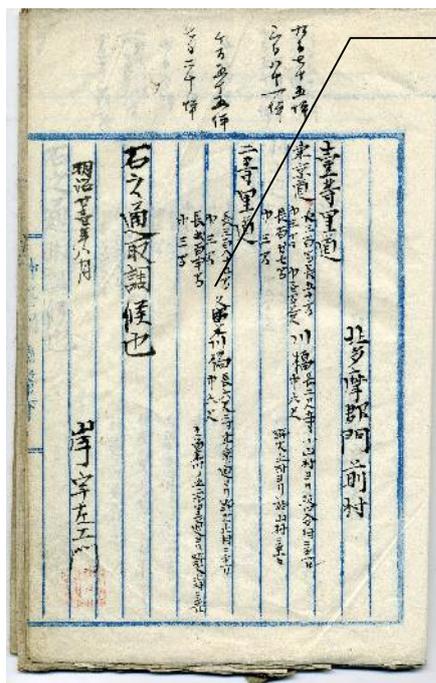
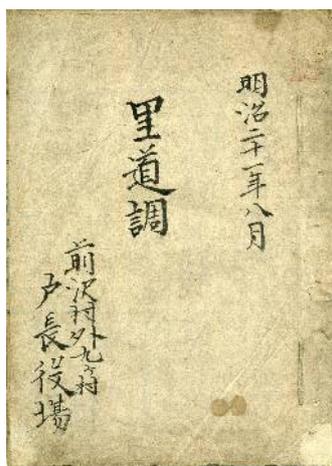
「山川 久留目川 西の方小山村より東流して落合川に至る、村内をふること凡三町、川幅三間許、則此川を用水とす」

落合村

「山川 久留目川 西の方神山門前二村の間より流れ来たり、村内をふること凡五町にして、東の方栗原村に至る、川幅凡三間、又前沢より湧出る小流二条あり、村内にて此川に落合えり、幅各一間許、水田には此水を引き用ゆ」

新座郡之一総説

「黒目川 水上は多摩郡柳窪村にて、所々の清水あつまり、二条の流となり、同郡落合村に至りて合して一流となれり、本郡栗原村 ながれいる、此邊をすべて黒目里と云、故に此名あり、或は久留目川とも書き、又来目川とも記す」（傍線は筆者追加）



『里道調』明治21年8月

前沢村外九ヶ村戸長役場が作成した「里道調」。明治9年太政官布告第60号により、道路は国道・県道・里道（りどう）の3種類に分けられました。これは北多摩郡役所に提出するため作成されたもので、同村略図が添付されています。（市史文書：市・行101）

また、明治9年に政府が全国的に編纂しようとした『皇国地誌』の現存する草稿（柳窪・下里・小山村）には「久留米川」と表記されています。このころから久留米川という名称が一般的に使われていたものと考えられます。

さらに、最近確認された明治期文書のなかで、久留米村誕生の前年にあたる明治21年8月に作成された『里道調』（りどうしらべ）のなかにも久留米川の名が多く使われていることが分かりました（一部に黒目川と表記）。

このように、当時は、現在の黒目川を久留米川と呼んでいる村が多く、落合川などその支流も含めて「前沢村外九ヶ村」のすべての村を流れている川の名前を村名にしたことは当然のことなのかもしれません。久留米村という名前そのものが、川から付いたものなのであり、湧水と清流の豊富な東久留米市の特徴を最もよく表わしているものといえるでしょう。

〔編集〕東久留米市郷土資料室（教育委員会生涯学習課文化財係）

〒203 - 0033

東京都東久留米市滝山4-3-14 東久留米市わくわく健康プラザ内

電話 042 - 472 - 0051 FAX042-472-0057